

## 英語圏のわらべうた ——日本のわらべうたとの比較を通して——

西海聡子\*

はじめに

わらべうたは日本のみならず、諸外国においても、民族固有のものが存在していることが知られている。それぞれの民族が持っているわらべうたは、民族の文化、風土、習慣等に深い影響を受け、旋律やリズムは民族の持つことばを強く反映している。

教育における遊びの重要性や、わらべうたはその民族の基本となる音感覚を育てる点からも音楽教育においてわらべうたは重要な素材といえる。オルフ (Carl Orff) や柯达イ (Kodaly Zoltan) も、わらべうたを音楽教育のシステムに取り入れ、小泉文夫もわらべうたを出発点とする音楽教育の必要性を主張している。わらべうたは民族の持つ伝統音楽の基本的性格をわかりやすい単純な形で示しているという。日本のみならず、諸外国のわらべうたを知ることは異文化の音楽を理解する上でも重要であろう。

本論文では、日本のわらべうたと比較しながら英語圏のわらべうたについて考察する。比較を通して、わらべうたの持つ類似性や、それぞれの相違点について考察したい。諸外国の中でも英語圏を選んだ理由は、Nursery Rhyme (ナーサリー・ライム) と呼ばれるわらべうたが今日でも豊かに存在していること、I&P, Opie や A, Gomme

等によるわらべうたや伝承的な遊びに関する収集・調査・研究が充実していることがあげられる。

日本における外国のわらべうたに関して音楽教育的な視点からの研究には後藤田による外国のわらべうたの紹介 (1975, 1981)<sup>1)</sup>や、発達との関連性に言及した研究 (1983~85)<sup>2)</sup>、今井 (1991)<sup>3)</sup>の伝承的歌遊びの教材化の歴史に関する研究等がある。語学的な見地からは鷲津 (1992) がことばの持つリズムに着目し、日本のわらべうたとナーサリー・ライムについての比較を行なっている<sup>4)</sup>。また、英語圏のわらべうたの全体像については平野 (1972) が詳しい<sup>5)</sup>。

### 1. 英語圏のわらべうた

イギリスをはじめとする英語圏諸国に伝承されているわらべうたは、日本やアメリカでは Mather Goose (マザー・グース) の名で知られている。しかし、イギリスにおいては Nursery Rhymes (ナーサリー・ライム) と呼ばれるのが一般的である。ナーサリー・ライムとは「子ども部屋で歌われる韻をふんだ詩」を意味し、遊び歌 (Games) 物語歌 (Tales)、文字の歌 (Literal)、早口ことば (Tongue Twister)、なぞなぞ (Riddles) 等を内容とする。「マザー・グースの唄は英語国民に幼児期から愛誦され、生活感覚・言語感覚の不可分な一部となっている」(平野1973)<sup>6)</sup>といわれるように、子どもからおとなまでの生活に密着している。母音の多用、同じ音の繰り返し、

\*〒380 長野市三輪8-49-7 長野県短期大学

頭韻や脚韻等あらゆる韻の使用等によりリズムカルな心地よい響きを持っていることが特徴である。古いものは200年以上にもわたって伝承され続けているものもある。

## 2. 英語圏のわらべうたの分類

日本のわらべうたと同じように、英語圏にも色々な種類のわらべうたが存在する。研究者や編者の立場や考え方によって様々な分類法があるが、ここでは遊びの種類による分類を E. Fowke の著書からあげた。<sup>7)</sup>

“Sally Go Round the Sun,  
-300 Songs and Rhymes-”

1. Singing Games (遊び歌)
  - ・ Ring Games (円形)・ Bridge Games (橋形)
  - ・ Line Games (列形)・ Assorted Games (各種組み合わせ)
2. Skipping Rhymes (なわとび歌)
3. Ball Bouncing (まりつき歌)
4. Clapping Games and Songs (お手合わせ歌)
5. Foot and Finger Plays (足遊び・手遊び)
  - ・ Foot Plays (足遊び)
  - ・ Dandling Rhymes (膝のせ遊び)
  - ・ Palm Ticks (くすぐり遊び)
  - ・ Finger Plays (指遊び)
6. Counting Out Rhymes (鬼決め歌)
7. Taunts and Teases (からかい歌)
  - ・ Starting Rhymes (かぞえ歌)
  - ・ Taunts and Teases (からかい歌)
8. Tricks and Treats (ハロウィンの歌)
  - ・ Strange Stories (おかしな歌)
9. Silly Songs (ナンセンスな歌)

ここでは種類を列挙するにとどめ、次にこの分類を参考としながら、英語圏のわらべうたを日本のわらべうたと比較しながら、それぞれ遊びの種類ごとに詳しくみていく。

## 3. Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び)

英語圏において、Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び)は主に大人が乳幼児をあやすための「遊ばせ歌」として用いられることが多い。母親や母親に代わる大人が子どもを膝にのせたり、座って向き合い、歌いながら子どもの手や足を動かす遊びである。そして、何回も繰り返して遊ぶうちに、また、年齢が大きくなるに従い子どもは自立してひとりでそれらの遊びができるようになる。

英語圏にはこの Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び)が豊富にある。遊ばせる部位の違いでいくつかの種類に分かれる。歌いながら指や手で何かの動作を模倣したり、みたてて遊ぶ Finger Plays (指遊び・手遊び)、足を動かす遊び Foot Plays (足遊び)、膝にのせて揺らす遊び Dandling Rhymes (膝のせ遊び)、手のひらをつねったりくすぐる遊び Palm Ticks (くすぐり遊び)、歌にあわせて目、鼻などの顔の部位に触れる顔遊び等がある。

代表的な Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び)を表1にまとめた。表の作成にあたっては複数の英語圏の遊び歌に関する文献や曲集にあたり<sup>8)</sup>、採択数が多いものを代表曲として載せた。また、参考として、遊び方が類似している日本のわらべうたを右に挙げた。

欧米においてよく知られた Finger Plays (指遊び)に ‘Incy wincy spider’がある。これは右手の親指と左手の人さし指、右手の人さし指と左手の親指を交代にねじりながらさわっていく遊びで、くもが巣を張る様子を表している。他にも、親指を父さん、人指し指を母さん、・・にみたてた ‘Where is thumbkin?’ など日本と同じように Finger Plays (指遊び・手遊び)の数は多い。日本ではあまり見られず、英語圏に多く見られる遊

表1 《Finger plays and Foot plays 遊ばせ歌》

種類	代表曲	(参考) 日本のわらべうた
Finger Plays (指遊び) (手遊び)	'Incy wincy spider' 'Where is thumbkin' 'Five currant buns in a baker's shop' 'Here is the church and here is the steeple'	「子どもと子ども」「いちにのさん」 「茶々つぼ」「ちょちちょあわわ」 「八兵衛さんと十兵衛さん」
Foot Plays (足遊び)	'This little pig went to market' 'Robert Barnes, fellow fine' 'This pig went to the barn'	「あんよはじょうず」
Randling Rhymes (膝に乗せて揺する遊び)	'Ride a cock-horse to Banbury Cross' 'To market, to market' 'This is the way the ladies ride	「千ぞや、万ぞ(おふねはぎっちらこ)」
Palm Tickles (くすぐり遊び)	'Round and round the garden' 'Can you keep a secret'	「いっぽんぼしこちょこちょ」
To show the Features (顔遊び)	'Here sits the Lord Mayor' 'Ring the bell'	「あがりめさがりめ」「だるまさん」

び方として Foot Plays (足遊び) と Dandling Rhymes (膝のせ遊び) がある。

よく知られた Foot Plays (足遊び) に 'This little pig went to market' がある。これは子どもの足の指を親指から小指までを順番につまみながら歌い、最後の Wee-wee-wee-wee-のところで足の裏をくすぐるというものである。泣いている子どもを黙らせるときなどによく歌うという。

'Robert Barnes, fellow fine' 'This pig went to the barn' も同様に足の指を一本ずつつまみながらの遊び歌である

膝でゆらす遊ばせ歌、Dandling Rhymes も日本より欧米に多い。馬の背中にみたとた大人の膝に子どもを乗せ、膝を上下に揺することで馬に乗った気分させるこのあやしかたは knee ride と呼ばれ欧米で一般的なあやし方であるという。他に 'Ride a cock-house to Banbury cross' 'To market, to market' 等がある。

'Round and round the garden' をはじめとする Palm Tickles (くすぐり遊び)、'Here sits the Lord Mayor' をはじめする顔遊びも日本と共通にみられるものである。

Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び) は、母親と子、保育者と子等の密接な二者の関係を中心とした歌と遊びを媒介としながらスキンシップを楽しむ乳幼児向けの遊び歌といえる。1歳くらいまでは母親の語りかけや歌いかけに対して、子どもは笑ったり、手足を動かしてそれに反応するだけであるが、しだいに部分的に一緒に歌ったり動作を模倣するようになる。ここには、遊びを通して他者と心を通わせ歌い合うはじめての経験があり、母親と子どもでのプリミティブな快い音楽体験の共有が存在している。

#### 4. Action Songs (からだ遊び/模倣遊び)

主に幼児を対象とした、歌にあわせた動作の模倣をからだを使ってジェスチャーするものである。模倣する動作の内容としては、動物の生態、人間の生活や仕事、乗り物等がある。(代表曲は表2を参照)

'I'm a little tea pot' は、人間をポットにみたくて、お茶を注ぐ様子を模倣したものである。年少の幼児に好まれ親しまれている遊びである。'Little cabin in the wood' は日本語で紹介されている

表2 《Action games 手遊び・からだ遊び》

ひとり	'I'm a little tea pot' 'Peter hammers with one hammer' 'Little cabin in the wood' 'John brown's baby'	「げんこつ山のたぬきさん」
ふたり	'Row, row, row your boat'	「なべなべそこぬけ」

表3 《Singing games/Dancing games 歌遊び・鬼あそび》

Ring games(円型) ①全員で同じ動作をする —単純な回転を楽しむ —全員で同じ動作をする	'Sally go round the sun' 'Ring around a rosy' 'The mulberry bush' 'Looby loo' 'When I was a baby' 'The hokey-pokey'	「らかんさん」
②円中央の一人が役割を持つ	'Rise, sally, rise(Sally water)' 'The farmer in the dell'	「かごめかごめ」 「かりゅうどさん」
③特定のものだけが役割を持つ	'In and ont the window(Round and round the village)' 'Old Roger'	「あぶくたった」 「ことしのぼたん」
④その他	'Skip to my Lou'	
Bridge games(橋型)	'London Bridge' 'Oranges and Lemons'	「通りゃんせ」
Line games(列型)	'Nuts in May' 'Jinny jo' 'Three kings a-riding(Three dukes)'	「はないちもんめ」
Assorted games (組み合わせ型)	'The grand old duke of york' 'If you're happy'	

が(山小屋いっけん), うさぎが猟師に鉄砲で撃たれそうになったところをおじいさんに救けてもらおうというストーリーを動作で表したものである。'John brown's baby' も日本では「ごんべさんの赤ちゃん」の名で定着している。'Peter hammer with one hammer' は大工がくぎをかなづちで打つ動作を, 1本から5本まで手や頭や足を使いユニークに模倣している。一人から遊べるが複数で遊ぶ際もこれらの遊びは全員で同じ動作をするので, 低年齢の幼児から可能である。

##### 5. Singing Games/Game Songs (遊び歌・鬼遊び)

Singing Gamesとは, 遊び方にルールを伴う広い範囲の遊び歌をさす。踊りの要素の強いものはDancing Gamesと呼ばれることもある。そし

て, ほとんどのものが集団による遊びである。(代表曲は表3を参照)

E. Fowkeは, Singing Gamesを隊形によってRing Games(円形), Bridge Games(橋形), Line Games(列形), Assorted Games(各種組合せ)の4種類に分類をしている。Ring Games(円形)とは, 全員で手をつないで輪になってまわるもの, Bridge Games(橋形)とは二人が手をつないで橋を作り他の子ども達がそれをくぐり抜けるもの, Line Games(列形)とはほぼ同数に分れた2グループが向かい合って前進と後退を繰り返すもの, Assorted Games(各種組合せ)とは, 特定の隊列をとらないものをさす。ルールを伴う遊びであるためルールが理解できる5, 6歳から小学校低学年の児童に遊ばれる。

## 5-1 Ring Games (円形)

Singing Games (遊び歌) の大部分を占めるものが、この Ring Games (円形) である。日本にも、めかくし鬼の「かごめかごめ」、ドラマ付き鬼あそび「あぶくたったにえった」等、円を作って遊ぶわらべうたは多い。A. Gomme は Ring Games をさらに3つの種類に分類している。<sup>9)</sup>

①全員で同じ動作をする。さらに2種類に分類され、ひとつは動作は伴わず、全員で手をつなぎ、スキップ及び歩行でぐるぐると回るだけの単純な遊びである。ぐるぐると回った後、終わりにしりもちをつく 'Ring around a rosy', 右回りをしたり、左回りをしたりする 'Sally go round the Sun' が有名である。単純な遊びだが、実際行なってみると楽しい。全員で同じ動作をするもう一つのパターンは、回転をしたあと全員で同じ動作の模倣をするものである。よく知られた遊びに 'The mulberry bush' がある。この遊びは、スキップで回ったあと、歌の歌詞に従って、日常生活の様子を動作で表す。'When I was a baby' も同様の遊びで、赤ちゃん、少女、結婚、出産、夫を亡くし、自分の死までをそれぞれ象徴的なジェスチャーで模倣する。その他に 'Oats, peas, beans, and barley grow' 'Punchinello' 'Looby loo' 等がある。

②円中央のひとりが役割をもつ。'Farmer in the Dell' はパートナー選びの遊びである。はじめに一人の子どもが農夫となり円中央にいる。歌の終わりで農夫は円の子どもから妻を選ぶ。そして、次に妻は子どもを、子どもはを乳母を、乳母は犬を、と順に選んでいく遊び歌である。'Sally water' もパートナー選びの遊びである。

③特定のものだけが役割をもつ同じく Ring Games のうち、円を形成している子たちはコーラスとして歌を歌い、特定のものだけが動くものがある。'Round the village' は、パートナー選びの遊びである。ひとりの子どもがスキップで円の

まわりや子どもの間をぬうように歩き、パートナーを選ぶものである。

'Old Roger' は、埋葬された Roger 役とりんごの木役と落ちたりんごの実を盗みにくる老婆役を決める。役以外の子ども達は円を作り歌を歌う。遊びの進行は、Roger は円の中央で横たわっている、墓のそばに立つりんごの木役が実を落とすジェスチャーをする、それを老婆が盗みにくる、Roger は起き上がり老婆を追いかける、というものである。

## 5-2 Bridge Games (橋形)

日本の「通りゃんせ」にあたる遊びである。英語圏では 'London bridge' と 'Oranges and lemons' がよく知られている。日本でも 'London bridge' は馴染み深いものだが、日本での一般的な遊び方は「通りゃんせ」と同じで橋役の二人が通り抜けようとする子どもをつかまえるまでである。しかし、英語圏の遊び方はもう少し複雑で、橋の二人はそれぞれ秘密の暗号を持っていて、つかまえた子どもにも2つの暗号を伝え、どちらかを選択させる。選んだ暗号によってどちらの橋役のうしろにつくかが決まる。全員が2グループに分かれたら、ひっぱり合い (tug of war) を行い、勝ち負けを決める。'Oranges and lemons' も同様の遊びである。

## 5-3 Line Games (列形)

列形で有名なものとしては、'Nats in May' があげられる。日本のわらべうた「はないちもんめ」とよく似ている遊びである。欧米の遊び歌によくみられる Marriage game 結婚・求愛ゲームのひとつである。二列に分かれ問答を行い、それぞれのグループでひとり選ぶ。選ばれた子どもはひっぱり合いをして、勝った子のグループに負けた子が移る、というものである。他に 'Have you any bread and wine?' や 'We've come from

Spain' 等がある。

## 5. Skipping Rhymes (なわとび歌) / Ball Bouncing (まりつき歌)

道具を使うわらべうたとして 'Teddy bear' 'On a mountain' 等の Skipping Rhymes (なわとび歌) や 'One two three O'leary' 等の Ball Bouncing (まりつき歌) がある。日本にも「大波子波」「郵便やさん」等のなわとび歌や「あんたがたどこさ」等のまりつき歌があり共通の遊びといえる。'One two three O'leary' は「あんたがたどこさ」と同じ遊び方で O'leary の部分でボールを足の下にくぐらせるまりつき歌である。道具を使うわらべうたによく見られる特徴に、1, 2, 3, と数かぞえを歌詞に歌いこんでいる点があげられる。これらの遊びではいかに多くの回数を失敗せずにできるか、ということが目的になるため、自然と歌で数を数える機能を持ったものが多いのであろう。

## 6. Clapping Songs (お手合わせ歌)

Clapping Songs (お手合わせ歌) とは「お寺のおしょうさん」や「アルプス一万尺」のように2人で向かい合って自分の手と相手の手をいろいろな形で打ち合わせながら歌う遊びである。日本でも、変わらず子ども達に人気が高い遊びであるが英語圏にも、'Pat-a-cake, pat-a-cake' 'Miss Mary Mack' 等たくさんの曲がある。

## 7. Counting Out Rhymes (鬼決め歌)

Counting Out Rhymes (鬼決め歌) は、主にゲーム等でだれが鬼 (It) になるかを決めたり、順番を決めるための唱えことばである。日本においても「おせんべやけたかな」「ずいずいずっころばし」等同種のものがある。しかし、日本においては、鬼や順番を決めるには、三竦みの原理によるじゃんけんが発達しているため、唱えことば

よりじゃんけんが圧倒的に使用される。英語圏では反対にじゃんけんはあまり使用されず、'Eeny, meeny, miny, mo' 'Hot potato' 等の唱えことばが頻繁に使用される。

## 8. 音楽的な特徴について

### 8-1 メロディーについて

英語圏における Foot and Finger Plays (足遊び・指遊び・手遊び) の多くは Rhymes (ライム、韻詩) と呼ばれているものである。メロディーは、ことばの高低に従った2音及び3音からできていて、メロディーというより言葉のアクセントやイントネーションをそのままを固定化した唱え歌である。従って、曲集においてもそのほとんどは楽譜なし詩のみで紹介されている。しかし、これらの Rhymes (韻詩) は歌に近い性格を持っている。英語は強弱アクセントを持った言語であるために、自然に話すだけで言葉にリズムが生まれる。さらに、Nursery Rhymes (ナーサリー・ライム) と呼ばれる伝承的なわらべうたは、韻の多用や、語呂のよい言葉の組み合わせ等によって、まとまった音のパターンを生み出し、リズムカルな詩は歌のように聞こえる。

Counting Out Rhymes (鬼決め歌) や Skipping Rhymes (なわとび歌), Ball Bouncing (まりつき歌) 等もことばに近い唱え歌が多い。

Action Songs (模倣遊び), Singing Games (遊び歌) になると、言葉の抑揚を基本にしているが、構成音も増え旋律的になる。音域としては1オクターブにおさまるものがほとんどで、歌う者に負担をかけない。形式感も明白で、使われているリズムも、4分音符や8分音符を基本としパターン化している。ほとんどのものが数回聞けば覚えらるるような、シンプルなメロディーである。

### 8-2 音階と拍子について

音階と拍子に関して、英語圏と日本では顕著な

違いがみられる。

英語圏のわらべうたの音階は、西洋音楽の音階である全音階（ドレミファソラシド）でできている。対して、日本のわらべうたの多くは、音階は核音を中心としたテトラコードでできている。

拍子に関しては英語圏のわらべうたは、4分の2拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、8分の6拍子、8分の12拍子と様々な拍子がある。日本のわらべうたの拍子は4分の2拍子が大部分で、4分の4拍子、混合拍子がわずかみられるだけである。特に、英語圏のわらべうたに関しては8分の6拍子が多いことが注目される。8分の6拍子の揺れるような軽やかな拍子の持つ特性は、ステップと大きな関連性がある。日本のわらべうたでは、手をつないで円をつくり、ぐるぐると回る時、歩いて回る。拍子は4分の2拍子が大部分である（「かごめ かごめ」、「あぶくたつたにえたつた」等）。しかし、英語圏の手をつないでぐるぐるとまわるリング・ゲームのほとんどは8分の6拍子で、スキップで回るのが一般的である。著名な歌遊びである The mulberry bush もそれに該当する。

### 8-3 ヴァリアンテについて

メロディーや歌詞には、英語圏・日本ともに各曲にさまざまなヴァリアンテがみられる。このさまざまなヴァリアンテが存在することがわらべうたの大きな特色といえる。口伝えによって伝承されるわらべうたは、地方や時代によってかなりの違いが見られる。このヴァリアンテこそ子どもたちの遊びの中で自由で自発的な即興や表現によって生まれるものである。

## 9. 英語圏のわらべうたにみる系統性

後藤田は、欧米のわらべうたの種類や構造と子どもの成長・発達には深いかわりがあることを指摘している。（図1「子どもの成長・発達と遊び

歌の関連」参照)<sup>10)</sup>

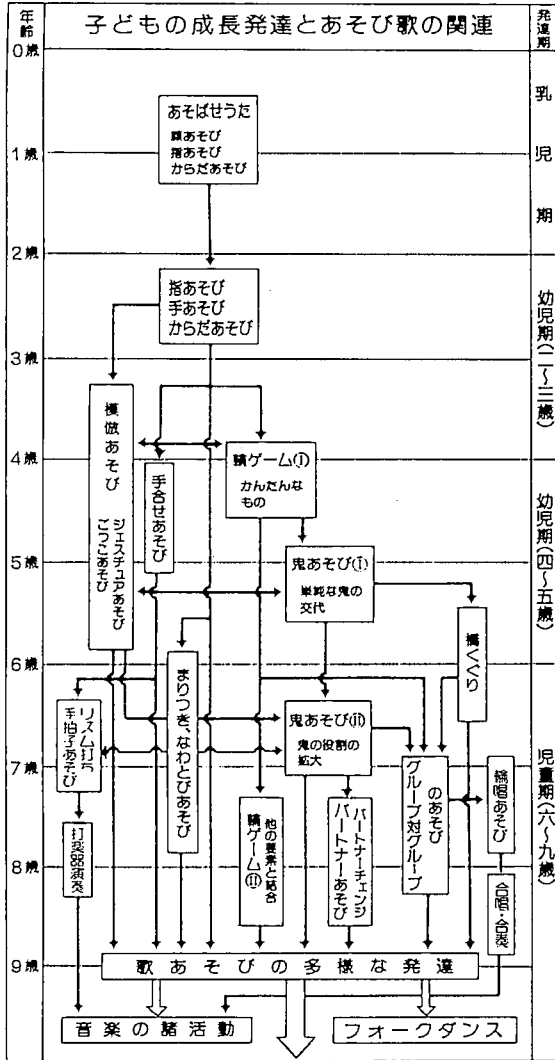
この表は、年齢・発達段階に従って、子どもたちに適したわらべうたが存在していることを示している。

今回、英語圏におけるわらべうたに関する文献にあたり、多くの曲にあたったところ、図1と同様のわらべうたの系統性を認識した。以下に子どもの発達とそれに適するわらべうたを簡略的に示す。

- ① 0～2才児：母親との二者の関係を基本とした Foot and Finger Plays（指遊び・手遊び・からだ遊び）等の遊ばせ歌。
- ② 2～4才児：遊ばせ歌での経験をもとに、そこから自立して模倣を中心としたひとりでの指遊び・手遊び・からだ遊び。
- ③ 3～5才児：他者を認識し友達ができるころの、ふたり及び少数でぐるぐると回転を楽しむだけの Ring Games（リング・ゲーム）及び Action Songs（からだ遊び・模倣遊び）。
- ④ 5～7才児：集団で遊ぶ楽しさを知りダイナミックな遊びを好むようになり、ルールを伴う集団遊びである Singing Games, Dancing Games（遊び歌）。
- ⑤ 6～9才児：ルールを伴う集団遊びである Singing Games（遊び歌）でも、複雑なルールや内容を持ったもの。

幼児の対人関係の発達の道筋と共通の、個から二者へ、次に少数集団へ、次に大人数集団へと遊びを構成する人数のひろがり、単純な模倣から、ルールをもった遊び、また即興的な要素を自らつけ加えるものなどへの複雑化する内容等の変化、音楽的にも、遊ばせ歌の2音や3音によって構成された言葉の抑揚に近い旋律から、しだいに構成音を増やし全音階に基づいた音組織を持つ単純だが洗練された旋律へ等の系統性を指摘できる。このように、英語圏のわらべうたには、発達に伴った遊びの段階性が用意されているといえる。

図1 子どもの成長発達とあそび歌の関連  
 後藤田純生：『世界のあそび歌40』  
 音楽之友社 p.6



日本においては、明治時代、近代化を目指した政府がわらべうたは卑俗なものであると学校教育から排除したことに端を発し、今日の社会の急激な現代化も手伝って、子どもの集団的な遊びは衰退の傾向にある。また、人々の意識の中でもわらべうたはむかしのうたである、という印象が強く、テレビ番組やコマーシャル等の刺激の強い音楽に慣らされている今の子どもたちの感覚に合わない

のでは、という誤解も少なくない。

英語圏では、現在でも、わらべうたは伝承的な子どもの歌として、母親から子どもへ、また、子どもたちの中で歌い継がれている。書店にはわらべうたの絵本、歌集、ビデオが並び、家庭にはわらべうたの本が少なくとも数冊はあるのが普通だという。テレビの子ども向けの番組でもわらべうたは取り上げられる機会が多い。このように英語圏では社会的にもわらべうたを尊重する環境が日本より整っていて、現在でも人々の間に脈々と息づいている。

おわりに

英語圏と日本のわらべうたを比較し、遊びの種類に関しては、共通及び類似しているものが多かった。しかし、メロディーの音階や拍子などは、文化や言語の違いから、かなりの違いがあった。遊びの内容としても、英語圏には、求愛・結婚を題材としたパートナー選びが数多くみられ、日本のわらべうたにはそれらにあたるものは少ない。また、英語圏のわらべうたには、子どもの発達に伴った遊びの種類が段階的に用意されていることも指摘できる。

「大きな栗の木の下で」「ロンドン橋」等の遊び歌は、本来、外国のわらべうたである。しかし、現在ではもともと日本にあったかのように定着し愛唱されている。外国のわらべうたの中にも、日本語化して馴染みやすいものがある。それらに関しては、子どもたちに幅広い音楽体験を与える意味からも、積極的に取り入れていってよいのではなかろうか。

謝辞

遊び歌の魅力をも十二分に教えて下さるとともに本稿をまとめるにあたりお世話になった後藤田純生先生にあつく御礼申し上げます。

また、常日頃からあたたかい励ましと適切なアドバイスを下さる本学川井明男教授、小木曾敏子



教授に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 後藤田純生：『世界のあそび歌35』『世界のあそび歌40』音楽之友社 1975/1981
- 2) 後藤田純生：「〈歌遊び〉をめぐって(1)~(2)」『あんさんぶる』198号(1983年6月号)~219号(1985年3月号)カワイ音楽教育研究会
- 3) 今井民子「音楽指導における遊びと技能—伝承的歌遊びとその教材化の歴史」『季刊音楽教育研究』66号 1991冬号 pp.7~20 音楽之友社  
他に「欧米の伝承歌遊び」『弘前大学教育学部紀要』第69号 1993 pp.69~80
- 4) 鷲津奈都江：『わらべうたとナーサリー・ライム』晩聲社 1992
- 5) 平野敬一：『マザー・グースの唄』中公新書 1972
- 6) 平野敬一：『マザー・グース童謡集』ELEC 出版部 1973 p.3
- 7) E. Fowke “Sally go round the Sun, 300 songs and Games of Canadian Children” McClelland and Stewart, 1969, Toront
- 8) 表の作成にあたっては次の文献を参考にした。  
■ E. Fowke “Sally go round the Sun, 300 songs and Games of Canadian Children” McClelland and Stewart, 1969, Toront
- 9) A. B. Gomme “The Traditional Games of England, Scotland and Ireland, vol, II” Dover Pub. Inc, New York, 1898 p. 475
- 10) 後藤田純生：『世界のあそび歌40』音楽之友社 1981 p.6